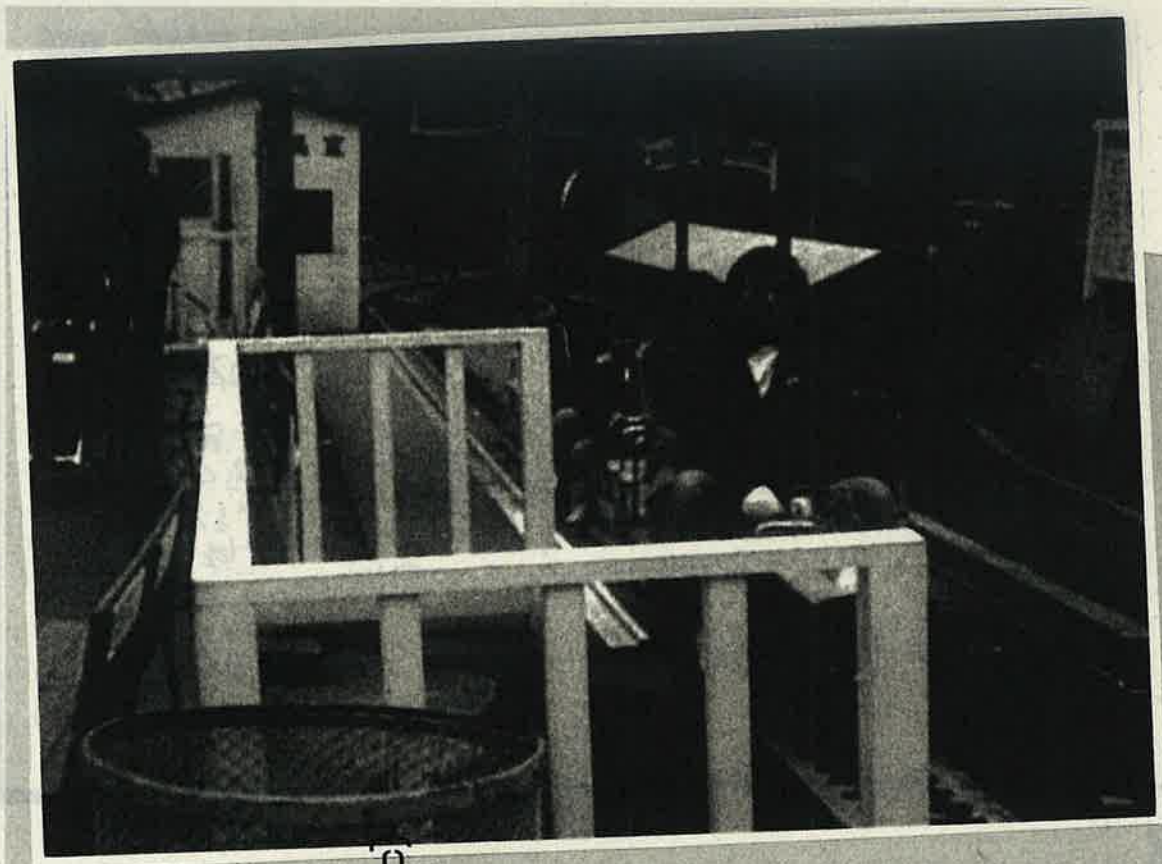
かぶうずら、やまいもうなぎ

アカカブの会の記録 2025 no.3〈最終号〉



穴アーカイブ：an-archive
記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在（穴）から捉え直す反（an）アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30～50年代にかけて市販されたBミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光あてる。2015年から始動。

キャプチャー画像：No.80｜二子東急の映画の帰り
1981（昭和56）年1月｜自宅兼店舗（玉川）、二子玉川園｜16分37秒｜カラー
撮影者が営む蕎麦屋の店内。テレビには『太陽に吠えろ』が映っている。自宅の駐車場にはワゴン、牛乳やコーラなどの自動販売機が4台並ぶ。車のトランクに色々と詰めている。場面は変わって二子玉川園。アトラクション、売店など。二子玉川園は商店街に加盟していたため、各店に招待券が配布されていた。

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

あ、22才。　玉川。

い、昭和初期に建てられた川上貞双の川上児童歌劇団の（建ちなおされた二子玉川園内）建物写真を涼しいことを思い出した

う　68才　映画の帰り（No.80、昭和56年1月撮影）。どのような声が集まってきたのでしょうか。じっくりお楽しみください。

参加者の記憶を媒介とした対面での「言葉の交流」を目的とする、せたがやアカカブの会。2022年度からは《ハガキ方式》での遠隔実施と対面実施を併用するハイブリッド開催をしてきました。今回覧いただいた映像は『二子東急の映

【お知らせ】

〈せたがやアカカブの会〉（以下、本会）では2018年より、参加者の声を《かぶうずら、やまいもうなぎ》（以下、本紙）にて紹介してきました。また、コロナ禍に対応した《ハガキ方式》での遠隔実施も実施してきました。

このたび本会の運営のあり方を整理し、2026年度以降はリニューアルが完了したウェブサイト『世田谷クロニクル 1936-83』および本会の開催会場（生活工房）にて、参加者の声をご紹介することになりました。なお、会員の方には会場だけでなく、オンラインでも声の回答ができるよう準備を進めています。

つきましては、本紙は今号をもって休止、また、コロナ禍の収束にあわせハガキの同封を終了します。本会の開催案内については、会員の皆さまにひきつづき郵送いたします。ご参加お待ちしています。

POST-MOVIE

(あ)　一13歳

(い) 思い出したエピソード

当時父親に連れてもらった映画館の記憶を思い出し
その頃　群馬県に住んでいて、車で15分くらいかけて、
映画館に行っていた。その映画館は　温泉、やゲームセンター
などの娯楽施設でもあったので、映画を見た後は、
館内をうろうろ回りながら、最後、温泉に行くのが
日課になっていた。

(う)　31歳　，神奈川県相模原市

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

あ）小学校低学年の頃。　群馬県高崎市在住。

い）初めて映画を観たのは、市内にあった オリオン座だった記憶している。国鉄に勤めていた父が、『大いなる旅路』を私にもみせようとして、連れて行ってくれたのだが、冒頭の蒸気機関車牽引の列車が転覆するシーンにびっくりし、「外に出たいと言ったのを耳にして、父はしかたなく私と一緒に帰宅した。当然、父は不機嫌であったし、私は当該作品を今日まで観ていない。

う）七十二歳。　世田谷在住。

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(あ) 27才　世田谷区

(い) 二子東急なつかしいです。私が知っている二子東急は名画座でした。
昭和50～60年代、映画好きだけどお金がない私はよく名画座で
映画を見ていました。小田急沿線に住んでいたので、よくいく映画館は
新宿や渋谷で、当時家からはアクセスが悪かった二子東急は名前は知って
いても行ったことがありませんでした。
そんな頃、森田芳光監督の「のようなもの」が評判になり、どうしても見たい
と思って名画座を探したら二子東急で上映があったので見に行きました。
映画が終った後、外に出ると既に暗く荒涼とした風景が広がっていました。
二子玉川園が閉園して当時はどこかさびれたような印象がありました。
映画の内容を反芻しながらさびしい風景の中を歩いて帰ったのを今でも覚えて
います。結局、私が二子東急で見た映画はこの一本だけでした。今でも
森田芳光の名前を見るとあの風景を思い出します。調べたら映画の公開は
昭和56年なんですね。8コリのあの風景の中を私も歩いていたんだなと
不思議な気持ちになりました。

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

(う) 71才　世田谷区

POST-MOVIE

あ）7歳，東京都下

い）二子玉川には縁がなかったのですが，
みなさんのお話をうかがって，当時の風景が見えて
くるような気がしました。
当時は父が仕事で休日も忙しく，姉と私を
連れて，母がよく映画館につれていってくれました。
家の近くの映画館には二番館しかなく，
封切映画を観に，新宿まで行っていたのを
思いだします。角川映画やスピルバーグ映画を
楽しみにしていました。

う）61歳，東京都下（同じ街にすんでます）

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(あ) 25才くらい。

(い) 大江健三郎さんの小説にも出てきますよね…
二子玉川園…小学生のころ(よく)プールに
行きました。
このフィルム撮られたころには、三茶の
名画座には行きましたが、二子は覚えてません…
レトロな遊園地また行きたい。

(う) 69才。あのころは喜多見に居ました。
今は色に居ます。
世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

よく見れば自販機も古いタイプ…

No.80
『二子東急の映画の帰り』
昭和56年1月｜自宅兼店舗(玉川)、二子玉川園
16:38｜カラー
蕎麦屋、駐車場、二子玉川園のアトラクション。

どうぞ、二子東急ですよ。

POST-MOVIE

(あ) 2才 世田谷区 高橋様

(い) 二子玉川園はスケッチ、ちょっとかっこいい。観覧車がこわかったこと。
プールやゆえんちどころ。
動物園もたくさんいた。
なかなか行けない遠い場所に連れてってもらえた。
家族で行くのはもっと遠くの遊園地。
遠くの「ピカピカ」のようなレストランで夕食。
自分の頭はまだまだ幼い。
ちゃんとしたレストランに行くのは東京に住むようになってから。
映画館はよく行った。
ロードショーは、新宿の大きな劇場。
ゆったりとした座席。
ポップコーンを食べながら、ドキドキ、ハラハラ。
現在、東京でもいろいろ楽しめるようになりました。

(う) 世田谷区在住

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

POST-MOVIE

(あ) 16才 札幌市

(い) 学校帰り、名画座に通い、映研で
8mmカメラを回してました。

(う) 61才、世田谷区

かぶうずら、やまいもうなぎ　アカカブの会の記録2025 no.3〈最終号〉
発行日：2026年4月24日

お問い合わせ：生活工房　03-5432-1543　info@setagaya-ldc.net
編集：せたがやアカカブの会世話人（松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな）
主催・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004　東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
https://www.setagaya-ldc.net/
企画制作：remo［NPO法人記録と表現とメディアのための組織］
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。

No.80
『二子東急の映画の帰り』
昭和56年1月｜自宅兼店舗(玉川)、二子玉川園
16:38｜カラー
蕎麦屋、駐車場、二子玉川園のアトラクション。

POST-MOVIE

(あ) 0才 3ヶ月、大阪

(い) 映像に出てくる女の子が少し自分より上だったが
同世代だなあと思って見ていました。
母も、祖母も、映像内のお母さんのような
がっちりとしたジャケットとボックススカートを着て、
お出かけするんでした。昔は、家族の服装を
見ると、今日なんの日かわかったなあと思い出しました。

(う) 45才、青梅市

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

No.80
『二子東急の映画の帰り』
昭和56年1月｜自宅兼店舗(玉川)、二子玉川園
16:38｜カラー
蕎麦屋、駐車場、二子玉川園のアトラクション。

POST-MOVIE

(あ) 2才 世田谷区

(い) 幼稚園
結婚式で ハナ屋さんに
行ったこと
二子玉川園
観覧車
ピカピカ、エレベーターに
乗ったこと
(…子どもの頃は高いところ
こわかった)

(う) 67才 三鷹市井の頭
コケラ三を見ました。

No.80
『二子東急の映画の帰り』
昭和56年1月｜自宅兼店舗(玉川)、二子玉川園
16:38｜カラー
蕎麦屋、駐車場、二子玉川園のアトラクション。

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(あ) 19歳　福岡県大牟田市
昭和56年3月　上京して都民になりました。

(い) 映画館によく行くようになったのは社会人になってからで、
それ迄は、お金がなくて専らテレビでみていました。
映画館は立派な建物が多く、券売窓口の木枠が
手摺れでツルツルピカピカになっていました。隣には
喫茶店や鯛焼屋などがありました。素敵な時代でした

(う) 64歳　世田谷区在住
故郷を離れて50年世
が経とうとしている!!

No.80
『二子東急の映画の帰り』
昭和56年1月｜自宅兼店舗(玉川)、二子玉川園
16:38｜カラー
蕎麦屋、駐車場、二子玉川園のアトラクション。

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

POST-MOVIE

(あ) 当時25歳、世田谷区

(い) 二子玉川園では、観覧車に"乗車ーのジェットコースター"ぬ、ボートに(小学生時代)
ドキドキ。　00ってわけこそ言ってない。ちょうどかっこいい。
動物園(ほとんどの場合)、多摩川園の子供向け遊具を(世田谷区)制覇した。これは学校
の遠足(ほとんどの場合)、多摩川園、生活工房、渋谷(当時は二番館とか)
映画館(ほとんどの場合)、ロードショーを観に行った。
ポップコーンを食べながら"ドキドキ"ハラハラ"した。
ロビーには、日本初の"冷蔵庫"があった。(ジュースの)
映画館は、ほとんどの場合、世田谷区内にあった。
ニュー世田谷劇場、ラピュタ、三軒茶屋シネマ、三軒茶屋ロキシー、ムーラン
されてるよね。三軒茶屋シネマ。　駅前商店街と自動販売機が多かった。
(う) 現在 ワ歳

No.80
『二子東急の映画の帰り』
昭和56年1月｜自宅兼店舗(玉川)、二子玉川園
16:38｜カラー
蕎麦屋、駐車場、二子玉川園のアトラクション。

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

ポスター：an-archive
せたがやアカカブの会vol.43〈ハガキと封筒のハイブリッド〉
開催方法：アカカブの会々員に郵送した返信用ハガキに回答・返送してもらいました
開催日時：2026年1月25日（日）14:00～15:30
ハガキ募集期間：2025年12月8日-2026年1月22日
回答数：14名